第 2015-22 号

恵みと真理のニュース

2015 年 6 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の人生の中で主の御言葉と愛がいつも共にいるので 真の幸せを告白し感謝と賛美を主に捧げます

私は兄弟が多い家庭で生まれましたが、生まれた当時体が弱くて命が終わるくらいで次の日に明るくなると土に埋めると思って私を部屋の片隅に私を寝かせておいました。次の日に一番上の姉が私の顔を見て息をしていて幸いにして明るい光を見るようになりました。その後もよく病気にかかって、あまり外に出なくて家で生活をしました。

私は昔の事が思い出さないですがおねえちゃんが良く話したことは何も知らなくて体が弱かった私が村に教会が出来てその教会行きたいと意地を張って父がトーアの前を強く守ったにもかかわらず裏の門で静かに出て教会に行ってきたと話しました。早く私を選んで救ってくださった神様の御心と摂理があったと私は信じます。

まだイエス様を真実に受け入れない状態で結婚しましたが、私の兄が教会の執事でした。当時、新婚の家を準備する時に今まで集めたお金では足りなくて旦那の親から経済的に少しもらいましたがところが、兄の欲でその助けを得られなくなりました。また、兄が田舎にいる親を疎かすることを見て失望して教会に行こうと思ったことをやめました。私達の家庭の経済的な状況をしている母と父がブゴクに家を買えるように助けてくださいました。そこで熱心に信仰生活をする恵みと真理教会の区域長に出会いました。その区域長に導かれ教会に通い当会長の牧師の説教を聴き始めてイエスキリストを受け入れ救いの喜びを感じて神様に感謝する人生を生きるようになりました。

アンヤン聖殿に通い熱心に主日礼拝、平日礼拝を捧げる中家の近くにブゴク聖殿が立てられました。信仰的にはまだ足りないですが美しい新しい聖殿を与えてくださった神様の恵みに感謝して教会学校の教師として奉仕を始めました。新しい聖殿で主の働き人が足りなくて教会学校の聖歌隊で指揮者もするようになりました。経験もなく自信もなかったですが神様が職分を下さるときには担える力も与えてくださることを信じて従順しました。学生達にも教える御言葉と賛美を準備しむしろ私が神様の恵みと愛を深く悟り信仰も成長しました。

そのように私の神霊に主の喜びと平安が充満になる時に一方試練が来ました。旦那に頼っている姑が、数ヶ月に一度づつ問題を起こしてその時ことに私にたちが担えられないお金を送りなさいと言われました。それだけではなくお酒に酔って生活をするから村でも問題を起こして大変でした。目の前が暗かったですが、田舎にある親の家を行き来し親孝行するため努力しました。

そうするうちに今回は弱り目にたたり目で旦那が私に言わなくて他の人の請けに立ったことが問題が出来て家族は慣れていた家を離れサンボンに引越しなければならなかったです。苦難の中でも感謝する事は聖霊様が私を強くしてくださる神様にたいする私の信仰だけは揺れませんでした。アンヤン聖殿で主だけを見ながら児童区域長や教会学校の聖歌隊の指揮者や音楽部長で教会学校学生達を仕えています。

苦難を受けながらいつから胸の痛みがありました。どころが驚くことは主の御言葉を聞いて子供達を会いに行く主日なると痛みが全くなかったです。ある礼拝時間当会長の牧師の神癒と祝福の祈りをする時に普通よりもっと強い確信と感謝で胸に手を当てて祈る時に神癒の恵みを体験しました。その後から主日だけでなく平日も胸の痛みがなくなりました。神様はサンボンにも新しい聖殿を与えてくださいました。新しい聖殿でやる事が多かったです。他の聖霊で満たした聖徒とたちと共に装飾など様々な事を預けて熱心に入党礼拝を準備しました。神様の尊い入党礼拝で聖歌隊で指揮者で立てくださいました。嬉しくて感謝でした。夏の聖書学校を準備をし重い責任を預かっている他の先生から心に傷つけられ落胆した事があります。これをどう分かったのか当会長の牧師が私を呼んで御言葉と慰めで励ましてくださいました。落胆が希望に変え新しい力を得ました。

私達の家族がまたソウルで引越しして今回も神様はヨンドンポ聖殿を建ててくださいました。引越しするどころにすぐ神様が恵みと真理教会の聖殿を建ってくださることが驚いたことで感謝する事でした。初めは私の性格で新しい聖殿の環境で適応して新しい人々に会って交際し奉仕することが難しくてしばらく遠いサンボン聖殿を通いましたが、神様の恵みと摂理でヨンドンポ聖殿での良く適応して以前より福音できな説教を聞くことが出来ました。以前よりもっと熱心に教会中心の生活をする事が出来ます。所所に聖殿が建てられ当会長の牧師の福音を説教を聴くことが出来て相変わらず礼拝中心教会中心の信仰生活をするように導いてくださる神様に感謝します。

今まで私一人で信仰生活をするのが苦難と迫害が多かったです。そうするうちに教師15年勤続し当会長牧師から賞と聖書と説教テープをもらいました。もらった聖書と説教テープを田舎からソウルに引越しして来たお姉さんにプレゼントしました。するとお姉さんが御言葉を聞いて大きく感動し恵まれて私達の教会に来て礼拝を捧げ信仰が熱心に変りました。嬉しくて感謝したか分かりません。私の近くで熱心に信仰生活している姉がいて大きい力になり教会を仕えるようになりました。姉はイルサン聖殿で勧士会の会長の職分を担って教会と聖徒を仕えています。

足を怪我をして歩くのが不便になった姑を私の家で不平も言わなくて良く手伝って大小便を処理した小学生だった娘は、今神様の愛の中で成長して青年になり私をついて教会学校の教師となり、最近は神様の恵みで真実できれいな信仰の家庭も作りました。私ももう教会学校の教師で奉仕して24年になりました。教会学校でまた修練会“先生！”として私を従った子供達がきれいで素敵な青年になって教会で宣教部で献身している姿を見ると、世の中では絶対得られない神霊なやりがいと喜びを感じます。主の中で共に生きるようにしてくださり感謝と賛美を捧げます。振り替えてみると小さい大きい患乱と試練が多かったですが、主がこの事を万事が益となるように共に働いてくださり自分には有益になりました。神様に全ての栄光を捧げます。神様愛します。神様を賛美します。

［信仰コラム］

神様を嬉しいようにする生活

″…そういうわけだから、肉体を宿としているにしても、それから離れているにしても、ただ主に喜ばれる者となるのが、心からの願いである…″(コリントの信徒への手紙二 5:8~10)

人が生の理由と目的を知らないまま生きて行く方法と技術だけ会得すれば、決して幸せで成功的な人生を生きていけません。 なぜ生きるかを知るべきです。 なぜ生きるかを知ったらどう生きるかを知り合いになります。 本文のお言葉は、人がどうして生きるかを教えてくれます。 ’主を嬉しいようにすること’これがすべての人に知らなければならず、実践躬行しなければならない人生の究極的理由で目的です。 神様を嬉しいようにする生活が何かどうかをチェックします。

第一に、神様に仕えなければなりません。

人は創造主、神様の意志によって創られた存在です。 如何な人でも彼が創造主がいという事実を故意的に認めないようにしないなら、創造主、神様がいることを示す数多くの証拠を見るようになります。 天と地そしてその中にある全ての万物がこれを証拠といます。 また、謙虚な心を持って科学的な観察と研究をすれば、天地万物に内在する法則が創造主神様の栄光と能力を証拠といることを知り合いになります。 そして聖書には神は創造主のだけでなく、犯罪して呪いの下に置かれ、滅亡に至るようになる人間を救援する救世主になるという福音を計時しています。 私たちが捧げるべき神様は、一分です。 創造主でありまた、救世主の神様です。 我々はイエス・キリストもあいまって、我々を救援した神様だけを礼拝しなければなりません。 創造主で救世主の神様に感謝と賛美歌を致す神様を嬉しいようにする者がなります。

第二に、神様からもらった福と恩を思いっきり享受しなければなりません。

神様は聖徒に聖霊の交通することと約束した言葉で豊かな恩恵を施してを望んでいます。 神様の福と恩を思う存分享受するためには神様と神様の言葉を信じて追従しなければなりません。 このような聖徒にはいつも喜びがあり、凡事に感謝する姿が現れるようになります。 また、祈念しなければなりません。 神様からもらった福と恩を思いっきり享受し生活は神を喜ぶ呼び立てします。

第三に、教会に有益を与え、徳を立てるようにしなければなりません。

わが神様の最も大きな関心の対象は教会です。 聖徒の集まりが教会です。 教会の頭は、イエスの先生で、聖徒たちはその肢体です。 ですので、私たちが教会に有益を向け、徳立てることを向けて努力する時、神様を喜ぶ呼び立てします。

第四に、社会の一員として優しくて誠実に生活しなければなりません。

イエス様はお話することを″そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい″(マタイによる福音書 5:16)しました。 私たちが善良で正しく生きて誠実に生活するのでこれによって人たちが信仰的感化を受けることになる神様を嬉しいようにする者がなります。

第五に、福音を伝播しなければなりません。

福音の伝播は救いを得るように、他の人を導くことです。 言い換えれば、なぜ住む分けるわかるようにして神様を喜ぶ呼び立てした人生を生きように導いてくれることです。 これよりさらに偉大なことはありません。 このような使役は隣人のために行う善良なことの最も優れたことであり、神様が喜ぶことです。

神様を嬉しいようにする者なることを努めながら生きていく人は恐れるべきものがありません。 死も怖くないんです。 そしてキリストの審判台の前に立つようになる日を恐れず、むしろその日を思慕するようになります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

キリストにあって患難が成すものなど

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

患難にあたるのを願う人はいないです。 ですが一生の間に患難を経験しないで生きて行くことができる人はいないです。 聖書は聖徒に患難に対処する方法を詳しく教えてくれています。 そしてその方法どおり行動する人には患難が意味ある結果を成すようになることを知らせてくれます。

第一、聖徒には患難が所望を遂げると約束されています。

ローマ人への手紙 5 章 3 節と 4 節にこんなに記録されています。 “それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。”
イエスキリストを信じて神様との関係が回復した人々でもこの世の中に住む間には患難を経験するようになります。 むしろ信仰のためにあう患難まで経験するようになります。 しかしどんな種類の患難でも聖徒を気落ちすることにできないです。 聖徒は聖霊様の助けを受けて患難を我慢して耐えながら勝ち抜けることができます。 聖徒は患難を通じて錬達されて信仰がもっと強まって純粋になります。 患難は私たちの肉体と現実生活に苦痛と損失を加えるが聖徒はそれによって天国の所望、復活の所望がもっと強烈になります。
こんな所望が私たちを恥ずかしくないようにする保障があります。 ローマ人への手紙 5 章に次のように記録されています。 “そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。”（ローマ人への手紙 5:5,6,8). 私たちが患難の中にも所望を持って生きて行けばこのような所望が恥にできる事が決してないです。 その所望を遂げるようにする保証があるからです。 私たちに注がれた神様の愛がその保証です。 イエスキリストが送った聖霊が神様の愛を我が心に注いでくださいました。
患難を耐えて患難を錬達の機会にする人の心霊には天国所望、復活所望が一杯になります。
患難がこのような所望を遂げさせます。 患難が聖徒を絶望させるどころかむしろ所望を生産する役目をします。

第二、聖徒には患難が光栄を成すという約束があります。

コリント人への第二の手紙 4 章 17 節にこんなに記録されました。 “なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。” 患難は概して懸念、恐れ、悲しみ、不便、喪失、苦痛、別離のようなことを伴います。 患難にあった人は患難という言葉だけ聞いても心に重圧感を感じます。 だから患難という言葉には “軽い”という形容詞が不適切であるということが分かりました。

ところで使徒パウロは “患難の軽いの”と言いました。別に言って “軽い患難”と言いました。 使徒パウロが患難を示して “軽い患難”と言った理由があります。 パウロ使徒は “私がいただく患難の軽いの”と言わなくて “私たちがいただく患難の軽いの”と言いました。 ここで “私たち”という称号はイエスキリストを信じるすべての人を言います。 私たちがあう患難は私たち主イエスキリストが私たちを救いするために受けた苦難に敢えて比べることができないからです。 イエスキリストは罪のない神様の御子です。 私たちを救いしようと人の身を着て世の中へいらっしゃいました。
ところで罪深い人生から蔑視賎待に受けました。 審問を受けて刺の冠をかぶってつばを吐きつけることにあいました。 むちに打たれたし十字架に釘を差し込まれる事ができなくたまらなかったです。 皆さんが患難にあえばカヤパの庭で、ピラトの官庭で審問を受けるイエス様を思ってください。 ゴルゴタ丘の上に十字架に釘を打たれたイエス様を思ってください。
そんなにすれば私たちがあう患難がいくら重いと言っても主イエスキリストがあった苦難に比べると非常に軽いという事実が分かるようになるでしょう。
私たちが患難を示して “軽い患難”と確信を持って言うようになる理由がまたあります。
私たちの受ける患難は将来享受する光栄と充分に比べることができないからです。 “このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである”と言いました。 イエスキリストを信じるから、主の仕事に熱心をつくすから、福音を伝えるからあう損失、犠牲、逼迫などの患難は “イエスキリストとともに受ける患難”という驚くべきで光栄な意味があります。 ローマ人への手紙 8 章 17 節、18 節に記録されるのを “もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。” といいました。
その光栄がいくら大きくて栄えるかは世の中のその何で比べるとか形容するあてがないです。
私たちが将来キリストといっしょに享受する光栄を思えば私たちのいただく患難は実に軽いのです。 “私たちのしばらく受ける患難”が “永遠な光栄”を成させると言いました。 私たちが世の中て長い期間に危機にあうと言っても、天国で享受する永遠な光栄に比べればとても短い瞬間に過ぎないです。 私たちは患難によって成すようになる極めて大きくて永遠な光栄を眺めなければなりません。 キリストにあってあう患難には無意味なのがないです。 神様を敬い畏れて神様を仕える中にあう患難は必ず比べることができなく大きくて永遠な光栄を成させます。

第三、聖徒には患難が善を成すという約束があります。

ローマ人への手紙 8 章 28 節にこんなに記録されています。 “神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。” “万事を益となる”と言うお言葉を何種類で分けてよく見ます。 第一に、聖徒が経験するようになる多様な困難と患難がこの世の中に有益で良い結果を成すようになるという意味があります。 私たちはアブラハムの生涯を通じてこのお言葉が適用される現場をいきいきと見られます。 アブラハムは神様のお言葉に従順して故卿と親戚父の家を離れ去って未知の地であるガナアン地で移住しました。 ところでまっすぐに飢饉に会いました。

そしてエジプトに下がってからひょっとすればエジプト王に妻を奪われる所であったがその事件によってエジプト王から多くの財物を得るようになりました。 二番目で、“ 万事を益となる”と言うお言葉には聖徒が経験するようになる困難や患難が信仰生活に発展を成させるという意味があります。 困難と患難にあえば神様の国が臨むのを切に望んで慕うようになって、神様の助けをもっと頼って切に求めるようになるので結局には万事を益となるのです。 神様の前に立つ日に誉めと賞を受ける善を成すようになります。 三番目で、“ 万事を益となる”と言うお言葉には聖徒が経験する危機、困難、為替危機その何でも遠い後日には善を成すようになるという意味があります。 使徒ペテロは記録するのを “そのことを思って、今しばらくのあいだは、さまざまな試錬で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう。”（ペテロの第一の手紙 1:6,7）しました。
神様が誰にもすべてのものが万事を益となることではないです。 その対象が指定されています。 “神様を愛する者すなわちその意味のどおり召された者等に”と言いました。 神様を愛しようとすれば神様が願う方法のどおりしなければなりません。 まず私たちを愛する神様の愛を受け入れなければなりません。 このような真理を非常に簡単明瞭するように記録しておいたお言葉が ヨハネの第一の手紙, 4 章 9 節、10 節にあります。 “神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。” 言いました。
イエスキリストだけが救世主ということを信じる人は神様の愛を受けた者でまた神様を愛する者です。 これらにはすべてのものが万事を益となる時が必ず近付くようになるでしょう。

イエスキリストにあって患難が成すものなどに対して約束されたお言葉をよく見ました。 患難が所望を遂げると言いました。 患難が光栄を成すと言いました。 すべてのものが万事を益となると言いました。 聖徒の皆さんは神様のこのような恩寵を信じて聖徒らしく生きて行くように願いします。